

## 4. 御前崎市総合保健福祉センター

## 御前崎市総合保健福祉センター

### 総 括

センター長 大橋弘幸

私は、御前崎市総合保健福祉センター長として4年目になりました。老人保健施設はまおかに関して、多くの入所者が80歳から90歳代の入所者さんで、皆さん多くの病気を乗り越えてこられてきた方が多く、食べたり、薬を飲んだり、歩いたり（歩行器や車いすを使用することが多いが）、トイレを使用したり、話したり、顔を洗って歯磨きしたり、風呂に入ったりするのに介助が必要な方たちが多く入所しています。また、療養病床は、急性期病棟や回復期病棟で治療したが病状が改善せず、食事が取ることができないため点滴療法を希望している方や酸素療法を継続せねばならない方、がんや心不全・呼吸不全で緩和医療が必要な方を引き受けています。

療養病棟は、大石俊明先生が担当してくださり、老人保健施設は宇崎宏城先生が診療してくださっています。また、療養病棟と老健は、看護師さんや介護員、リハビリスタッフ、栄養士もお互いに行き来があり、おかげで仲良く助け合って運営できています。療養病床や老健は、入所者が療養し生活して生きていく場所ですので、本施設では、少しでも楽しく充実した一日一日を過ごしてもらうことを目指しています。本施設の介護員さん、看護師さんは、やさしく患者さんをよくみてくださっています。また患者さんや家族に寄り添って、よくお話を聞き、入所者の事もよく伝えてくださっています。リハビリの技師さんたちも、あきらめないで入所者の負担を考えながら、粘り強くリハビリを行ってくださっています。また在宅復帰をめざして、自宅の環境を見に行き、環境整備を行ったりしています。また栄養士は入所者1人1人の栄養管理を熱心に本人の希望をよく聞いてくださっています。しっかり栄養をとって元気になってほしいと思っています。

スタッフ一同は、この施設が、患者・入所者がよりよく生活でき、楽しい時間を過ごせる場所であってほしいと思って仕事をしています。私は、人と人が繋がりあって、皆さんで高齢者を支える施設であってほしいと考えています。年を取っても最期までその人らしい一生を送っていただきたいと祈念してやみません。最後に、この施設を支えてくださっている多くの人に深く感謝します。

## 居宅介護支援事業所はまおか

令和6年度は研修派遣の交代もあり、年度初めは利用者数を減らしてのスタートだったこともあり、全体的に稼働率を伸ばすことができなかった。またターミナル支援や短期支援が多く新規利用者59件に対し終了者数が40件と多く、利用者数が増えなかった要因の一つと言える。

支援内容の傾向としては、認知症であるが元気な場合介護度が低くても家族の負担が大きく施設方向となるケースや認知症独居で地域支援を受けているものの周辺症状により地域で支えることが困難になるケース、精神疾患や経済的な生活困窮者、ヤングケアラーなど社会的な多問題を抱えているケースが増えており、より一層介護保険の枠を超えて多職種との連携が必要となっている。

【月別担当利用者数】

(単位：件)

|     | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 平均    |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-------|
| 担当数 | 58 | 61 | 65 | 69 | 71 | 72 | 70  | 66  | 67  | 72 | 76 | 75 | 68.50 |

【要介護度別割合】

(単位：%)

|     |    |    |    |   |   |
|-----|----|----|----|---|---|
| 要介護 | 1  | 2  | 3  | 4 | 5 |
| 比 率 | 39 | 29 | 21 | 6 | 5 |

【新規利用者紹介経路別人数】 (単位：人)

|                |    |
|----------------|----|
| 市立御前崎総合病院地域連携室 | 25 |
| 御前崎市地域包括支援センター | 19 |
| 市外の病院          | 0  |
| 家族・その他         | 15 |
| 合 計            | 59 |

## 訪問看護ステーションはまおか

看護師長 笹原由子

### 部署目標

1. 事例カンファレンスの定着
2. 本人、家族への意思決定支援
3. 知識向上に向けた学習
4. サービス関係者との連携
5. 訪問件数の増加
6. 業務の見直し
7. ヒヤリハット対策後の再評価

### 評価

1. 担当者の声かけにより週3件以上のカンファレンスを実施でき、職員の意識定着となった
2. 倫理事例検討の方法を変更し、利用者の状況が変わらないうちに事例検討が行われていた
3. 全スタッフが院外研修に参加し伝達講習を実施できた
4. 訪問診療カンファレンス開催日に対する訪問看護職員の参加率は昨年54%から86%に上昇した
5. 10月に職員減数があったが目標の22件以上/日達成できた
6. 退院後、在宅での点滴指示や物品確保に関する手順書の作成により安全、確実に支持の実施につながっている

### 【令和6年度 利用者状況】

(単位：件)

|      | 4月  | 5月  | 6月  | 7月  | 8月  | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 2月  | 3月  | 合計    |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 予防介護 | 10  | 7   | 9   | 13  | 16  | 14  | 16  | 14  | 11  | 11  | 11  | 10  | 131   |
| 介護保険 | 240 | 264 | 216 | 276 | 253 | 227 | 262 | 228 | 236 | 221 | 206 | 216 | 2,845 |
| 医療保険 | 240 | 272 | 201 | 221 | 224 | 210 | 222 | 182 | 201 | 199 | 183 | 188 | 2,543 |
| 合計   | 490 | 543 | 426 | 510 | 493 | 451 | 500 | 424 | 448 | 431 | 400 | 414 | 5,519 |

令和6年度 新規利用者：53名      ターミナルケア加算算定件数：20件

## 通所リハビリテーションはまおか

令和6年度

通所リハビリテーションはまおかは、利用者の心身機能の維持・回復を図り、日常生活の自立を助けるために理学療法や作業療法、その他必要なリハビリテーションを提供している。サービス内容は通所リハビリテーション、介護予防通所リハビリテーション、介護予防日常生活支援総合事業(短期集中予防通所リハビリテーション)、認知症予防事業となっている。

### 【月別通所リハビリテーションはまおか利用人数 (介護予防事業含む)】

|                  | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 8月   | 9月   | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   | 合計    |
|------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 平日稼働日数<br>(単位:日) | 21   | 21   | 20   | 22   | 21   | 19   | 22   | 20   | 20   | 19   | 18   | 20   | 243   |
| 利用者数<br>(単位:人)   | 588  | 588  | 551  | 574  | 547  | 544  | 618  | 605  | 595  | 521  | 522  | 576  | 6,829 |
| 一日平均<br>(単位:人)   | 28.0 | 28.0 | 27.6 | 26.1 | 26.0 | 28.6 | 28.1 | 30.3 | 29.8 | 27.4 | 29.0 | 28.8 | 28.1  |
| 祝日日数<br>(単位:日)   | 1    | 2    | 0    | 1    | 1    | 2    | 1    | 1    | 0    | 1    | 2    | 1    | 13.0  |
| 祝日利用人数<br>(単位:人) | 14   | 43   | 0    | 14   | 15   | 27   | 12   | 14   | 0    | 12   | 25   | 11   | 187.0 |

### 【地域別利用状況】 (単位:人)

|      |    |      |     |
|------|----|------|-----|
| 池新田  | 24 | 合戸   | 2   |
| 塩原新田 | 3  | 門屋   | 2   |
| 新野   | 7  | 白羽   | 18  |
| 上朝比奈 | 4  | 御前崎  | 19  |
| 下朝比奈 | 4  | 掛川市  | 2   |
| 比木   | 5  | 菊川市  | 2   |
| 佐倉   | 10 | 牧之原市 | 18  |
| その他  | 1  | 合計   | 121 |

### 【介護度別利用状況】 (単位:人)

|     |   |     |
|-----|---|-----|
| 要支援 | 1 | 16  |
| 要支援 | 2 | 19  |
| 要介護 | 1 | 36  |
| 要介護 | 2 | 22  |
| 要介護 | 3 | 15  |
| 要介護 | 4 | 11  |
| 要介護 | 5 | 2   |
| 合計  |   | 121 |

### 【年間行事】

|    |        |     |     |     |        |     |
|----|--------|-----|-----|-----|--------|-----|
| 4月 | —      | 8月  | 夏祭り | 12月 | クリスマス会 | 作品展 |
| 5月 | 新茶会    | 9月  | 敬老会 | 1月  | カラオケ大会 |     |
| 6月 | カラオケ大会 | 10月 |     | 2月  | 節分     |     |
| 7月 | —      | 11月 |     | 3月  | —      |     |

### 【1年の評価】

本年度は平日については1日平均28.1名の利用をいただき、年間6,829名の利用を頂いた。また、祝日営業についても13日間の営業にて187名の方が利用をして頂いた。来年度も市内唯一の通所リハビリテーション施設として、質の高いサービスを提供できるよう取り組んでいきたい。

## 老人保健施設はまおか

看護師長 村松依見

### 部署目標

1. ベッド稼働率の増加
2. 認知症チームケア推進加算Ⅰの取得
3. デイケアとの窒息シミュレーションの実施
4. タスク・シフト/シェアの実施
5. 費用削減
6. 業務改善
7. ヒヤリハット対策後の評価
8. 個人防護具着脱手技の確認
9. 知識向上に向けた学習
10. ターミナルカンファレンスに基づいたデスカンファレンスの実施

### 評価

1. ベッド稼働率については、目標の90%は達成できなかったが、担当相談員、施設ケアマネジャーとベッドコントロールを行い、平均87.7%以上維持した。
2. 介護報酬改定に伴い新設された認知症チームケア推進加算Ⅰの取得は、認知症グループが中心となり、取得可能な対象者を決め、手順書の修正・周知を行い、平均96.2%以上取得できた。
3. 窒息シミュレーションは、デイケア職員と老健職員合同で実施し、急変時にどのように行動すべきか、また物品の場所の確認など理解ができた。
4. タスク・シフト/シェアは、業務を整理し3件実施できた。
5. 費用削減は、各グループでコスト削減について課題を抽出・企画書を作成し4件実施できた。
6. 業務改善は、看護・介護主任が中心となり各グループで役割を決め、業務のスリム化を含め16件実施できた。
7. ヒヤリハット対策後の評価は、リスクグループが中心となり再評価の方法が定着した。
8. 個人防護具着脱手技の確認は、感染グループが中心となり、自己・他者チェックを定期的に実施し、手技が獲得できた。
9. 知識向上に向けた学習は、常勤看護師・介護員全員が院外・オンライン研修に参加し、研修を通して得た知識をまとめ伝達講習を実施した。
10. ターミナルカンファレンスに基づいたデスカンファレンスは、対象者全員に実施できた。しかし、終末期のガイドラインや緩和ケアマニュアルなどを活用したカンファレンスには至らなかった。

### 【令和6年度 月別利用者状況】

|                  | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    |
|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 入所延べ人数<br>(単位：人) | 1,395 | 1,447 | 1,292 | 1,368 | 1,419 | 1,381 | 1,366 | 1,253 | 1,313 | 1,320 | 1,243 | 1,244 |
| 平均利用者数<br>(単位：人) | 46.5  | 46.7  | 43.1  | 44.1  | 45.8  | 46.0  | 44.1  | 40.4  | 42.4  | 42.6  | 44.4  | 40.1  |
| 病床回転率<br>(単位：%)  | 22.9  | 17.6  | 18.5  | 16.0  | 15.1  | 12.1  | 14.5  | 15.1  | 19.4  | 18.8  | 21.0  | 21.9  |
| 在宅復帰率<br>(単位：%)  | 39.4  | 34.4  | 31.2  | 36.1  | 46.6  | 42.8  | 48.1  | 57.1  | 62.0  | 53.1  | 51.3  | 50.0  |
| 重症度<br>(単位：%)    | 31.4  | 30.7  | 32.5  | 34.3  | 37.7  | 38.7  | 40.9  | 40.1  | 41.7  | 44.5  | 49.4  | 52.0  |

\* 病床回転率は3か月平均、在宅復帰率は6か月平均、重症度は3か月平均である。

## 医療療養病棟

看護師長 岡本律子

### 部署方針

働きやすい職場づくりと患者カンファレンスの充実

### 部署目標と結果

|   | 目標                        | 評価基準                    | 目標値        | 結果    |
|---|---------------------------|-------------------------|------------|-------|
| 1 | 病床稼働率の向上                  | 病床稼働率                   | 89%        | 89.2% |
| 2 | 在宅復帰指数の維持                 | 在宅復帰指数（1年間）             | 0.15<br>以上 | 0.20  |
| 3 | 看護インタビュー内容を反映したカンファレンスの実施 | 看護インタビューを反映したカンファレンス実施率 | 80%        | 96%   |
| 4 | 意思決定支援に関する学習会の開催          | 意思決定支援の学習会の開催数          | 2 件        | 3 件   |
| 5 | 排泄カンファレンス実施後の評価           | 排泄カンファレンス実施後評価率         | 100%       | 100%  |
| 6 | ポジショニングカンファレンス実施後の評価      | ポジショニングカンファレンス後評価率      | 100%       | 100%  |
| 7 | 災害対策シミュレーションの実施           | 災害対策机上シミュレーションの実施数      | 2 件        | 2 件   |
| 8 | 業務改善の実施                   | 業務改善実施数                 | 8 件        | 9 件   |
| 9 | ホームページ（療養病棟）の更新           | ホームページ（療養病棟）の更新数        | 4 回        | 4 回   |

### 令和 6 年度 療養病棟 実績の推移

|        | 4 月  | 5 月  | 6 月  | 7 月  | 8 月  | 9 月  | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月  | 2 月  | 3 月  |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 病床稼働率% | 82.0 | 83.8 | 90.4 | 90.0 | 89.2 | 94.9 | 95.2 | 92.9 | 86.3 | 88.1 | 89.6 | 88.6 |
| 在宅復帰指数 | 0.25 | 0.25 | 0.23 | 0.21 | 0.19 | 0.19 | 0.16 | 0.16 | 0.16 | 0.16 | 0.18 | 0.20 |

### 評価

MSW と連携したベッドコントロールカンファレンスや急性期病棟との情報共有を実施し、スムーズな入退院調整に取り組み、病床稼働率、在宅復帰指数を維持した。思いを反映したカンファレンスだけでなく、排泄やポジショニングに関するカンファレンス後の評価も行いグループ活動を中心に取り組み目標達成を維持した。時期が遅れたが、机上シミュレーションは 2 回実施した。グループ活動が中心となった業務改善とスタッフ全員が参画した 5S 活動を実施し整理整頓や業務を改善する風土ができた。